



大野池

教職員写真同好会 伊藤仁浩

KIBO NO NIJI

きぼうの虹

発行所

北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 二面五面 コロナ禍の大学院生の生活を考える座談会
- 六面 こころの健康を考える 第69回
- 七面 大学文書館へ行く 第4回

北海道大学大学院 教育学研究院 渡邊 誠
北海道大学 井上 高聡
大学文書館

人工知能が俳句を詠む、と聞くと皆さんはどのような感想を抱きますか。調和系工学研究室では、人工知能の技術を使って俳句を生成し、さらには人工知能に俳句を理解させることを目指して研究を行っています。ご存じのように、俳句は五七五の音からなり、季節を表す季語、そして「や」「かな」「けり」といった切れ字を一つ含む有季定型句です。短い言葉の中に作者が見て感じた風景を写実的に織り込むだけでなく、その状況から想起させられる感情や面白さを表現することが求められます。文字数が限られるので高い抽象度で情報量の多い言葉を使うセンスが必要です。

「なぜ人工知能に俳句を詠ませるということの研究するのですか」という質問をよく受けますが、俳句そのものに興味があってこの研究テーマを選んでいるわけではありません。人がどのようなことを言葉で表現するのか、やり取りされる言葉にはどんな情報がこめられているのか、などといった人と人との相互作用の仕組みについて興味を持っています。俳句という世界観の中でそれがどのような成り立っているのかを人工知能の研究の観点から研究することによって、将来的に人と価値観を共有して相互作用できるような人工知能の実現に役立つのではないかと考えて研究を行っています。

皆さんのご感想はいかがでしょうか。自画自賛ですが、なかなかのレベルには達しているのではなにかと思っっています。少し種類かをしすると、実はこれらの俳句は人工知能がたくさん生成したのから人が良いと思うものを選んできたものです。今の人工知能では、俳句を生成することはできませんが、言葉の意味を理解しているわけではないので良い句を選んでくるといえることができます。

人工知能と俳句

北海道大学
大学院情報科学研究院 教授
川村 秀憲



Opinion!

現在の技術では、人工知能によってつぎのような俳句を生成することができています。

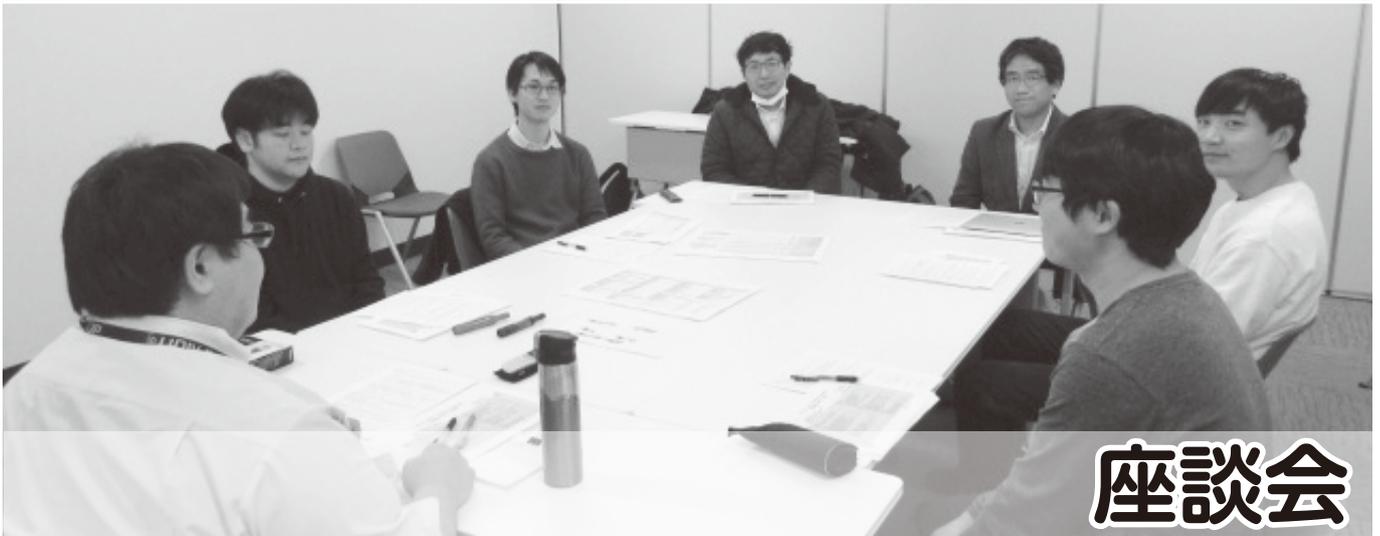
かなしみの片手ひらいて渡り鳥
菜の花や世界となりてひとつづつ
コスモスに手を触れている電話かな
宙吊りの東京の空春の暮

小学校2年生よりプログラミングを始めます。自分でプログラムを開発しつづつも、自分の能力を超えたものを作ることに興味があります。ニューラルネットワーク、機械学習などへの興味を経て、創発的計算、複雑系工学に興味を広げます。現在、『人工知能技術を応用し、人々の幸せに貢献する』をモットーに研究室学生とともに人工知能技術の社会応用、社会実装に関する実験研究を行う。

執筆者プロフィール

このような研究を通して、私たちはこれから人工知能とどうかかわっていくべきかについて深く考えさせられます。今後、経済的なインセンティブによって、世界中の様々な現場で必要とされる基礎的能力は人工知能に代替されていくはずですが、必要で同質な能力は必然的に、急速に人工知能に置き換えられていきます。その中で人が強みを生かすためには、他人がやらないことに興味を持ち、他人が持っている能力を磨き、他人がやらないことを行う、非同質性を追求すべきだと思います。私たちは、超多様性社会をどう実現するのかを深く考える必要があるのではないかと思います。

コロナ禍の大学院生の生活を考える



座談会

2020年10月から11月にかけて行われた大学院生生活実態調査の結果(回答数223件)を踏まえ、コロナ禍における大学院生の生活と北大生協のできることについて教員・院生・留学生・生協職員で座談会を開催しました。

日時：2021年2月16日

参加者

(所属学年は座談会時点のもの)



伊藤 凌 理学院修士1年



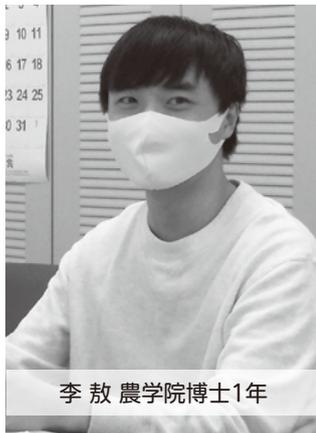
佐藤 昂汰 総合化学院修士1年



稲垣 征哉 環境科学院修士2年



中山 拓登 農学院修士2年



李 敖 農学院博士1年



清水池 義治 農学院教員



金森 達也 北大生協職員

いじわるじいさん

三月初めの吹雪の日、スーパード、客の中に、荷物袋を引きずっている異様な身なりの人を見た。裸足履きのサンダルは透明のポリ袋でくるみ、ガムテープで止めていた▼大岡昇平に「靴の話」という短編がある。大岡は1944年に召集され、フィリピンに渡った。

支給の軍靴は、鯨革にゴム底。草に滑りやすく水を通しやすいこの軍靴は、数日の逃避行で使えなくなった。そんな時、戦友が死んだ。みんな戦友が残した靴を狙っている：▼戦争末期、物資不足が深刻だった。軍靴が牛革から馬革・豚革に代わり、鯨革になった。フィリピンでは日本陸軍の戦病死者は33万を超えている。その内、どれだけの人がまともな軍靴を履いていただろう。足にぼろをまいていた兵隊もいた▼スーパードを見た人はポリ袋の靴で、雪の中に出て行った。コロナ禍を報じるテレビは、炊き出しの長い列を映している。一方で二月、日銀の金融緩和策もあってだろう、株価が3万円を越えた。首相は、経済再生に全力で取り組んできたので、感慨深い、と述べている(2月17日衆院予算委員会)▼
〈靴を見れば、その人がわかる〉ともいわれるが、軍人の、庶民の、靴を見れば時の政治がみえるようではないか。(今日子)

―コロナ禍での経済状況

佐藤：暮らし向きが苦しいと答えている人は26%になっていますが、学部生の結果と比べると苦しいという人の割合は高いんですよね。大学院に進学してからは親からの仕送りが無いという人もいますので、博士課程のような金銭面の支援制度があまりない修士課程の院生の中には苦しくなったという人が多いのではないかと思います。

清水池：暮らし向きが苦しいと答えている人数は少ないけれども、苦しい人は本当に大変なんだろうなと思ってます。そのような人たちが支援金などをちゃんと受け取れているのかなと気にしています。おそらく指導教員

も学生の暮らし向きのところまで把握していないと思う。

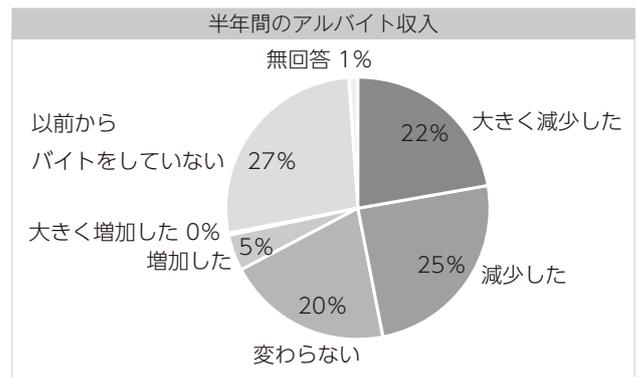
金森：留学生のみなさんの暮らし向きはどうでしょうか？

李：アルバイトの状況について気になってます。留学生の友人にアルバイトをクビになった人がいて苦しんでいる印象なんですけど、この調査の結果ではアルバイト収入の平均値は前回の2016年の結果と比べるとあまり変わらない。業種による違いがあるんでしょうか？

中山：この数年で学生の中に奨学金は借金だという認識が広がってきて、アルバイト収入が増える傾向にある。本来はもっと金額が増えていても良いところがある、コロナの影響で以前と変わらない金額に落ち着いているという見方もできるかなと思っています。

金森：北大生協でも営業時間の短縮でアルバイトの学生さんに退職していただいたという状況ですが、みなさんの周りではどうですか？

佐藤：お金が必要になったから短期バイトで稼ぐというようなのは、イベント関係が減ったこと



で全然アルバイトができなかったと聞きました。僕自身は塾で働いていますが、小中学校が休校になった時にシフトの回数も人数も増えました。働いている場所によって格差が広がっているように感じます。

李：留学生は語学スキルを活かして観光客が利用する免税店などで働いていますが、観光客も減って、営業時間も短縮しているのクビになったという人がいます。

金森：新たなバイトを探したりしてるんですか？

李：なかなか新規でアルバイトを募集しているところがなくて難しいと思います。

中山：日本人学生も同じで一度やめてしまうと次が見つからないので、シフトの回数が減った短い時間だったとしてもアルバイトを続けている人が多い気がします。

―コロナ禍での研究活動

中山：院生の中で週1日しかキャンパスに行かないという人が増えていることに驚いてます。ただ週5日来る人が激減しているわけではないので、大学に行かなくても研究できると感じている人と大学でしか研究ができないという人で大きく分かれているんだらうと思います。

金森：研究テーマによって一人ひとり違いが大きいですよ。みなさんの研究室ではどのような状態ですか？

李：大学にいる時間は本当に減りました。本や資料を探しに、週に1日くらい大学に来てます。

伊藤：基本的に家でできることは家でやっている。ミーティン

グやゼミもオンラインで、直接相談したいことがあるときは指導教員に許可を取って大学に行くような感じです。

佐藤：コロナ禍になって、それまであったコアタイムはなくなって、時間をずらしてきてくださいという感じになりました。就活が始まってからは効率が悪くなってしまっているのもあって大学に行く回数は減りました。

稲垣：実験をしないと研究が進まないテーマだったので、基本的に毎日大学と家を往復する感じでした。周りも実験をしなければいけない人は時間をずらしたりしながらも登校していました。

金森：1日の平均研究時間は6〜7時間という調査結果になっていますけど、みなさんそのような感じなんですか？

伊藤：毎日6時間も研究しているってすごいなと思いました。のんびり起きて朝ごはん食べて研究して、就活の調べものをしたり遊んだりしてというような生活をしているので、6時間はなかなかできない。

稲垣：4月5月の自粛期間はあまり研究が進められなかったですが、論文の締め切りが迫ってきた

ら10時間くらいやる時もありました。調査結果は平均した数字なので、時期によっても研究に充てている時間は違うと思う。

中山：登校日数や研究時間の結果を見ていると、コロナ禍で学生には場所を問わず計画的に研究をする工夫がすごく求められていると思う。そこで頑張っている人は業績に繋がっていると思う。逆に一人で悩んでいる人がいないかなと心配になります。

清水池：私は学生とオンラインで個別に面談をするようにしていました。今まではゼミの後にちょっと話をすることができましたが、今年は全く様子が変わらなかった。その様子を見るとコロナ禍の生活にうまく対応できている学生とそうじゃない学生の差が大きいなと思いました。

中山：先生と相談して何か問題を解決するみたいなコミュニケーションはオンラインでも可能でしたけど、学生室とかでしていた雑談はほとんどなくなっていましたなと思います。

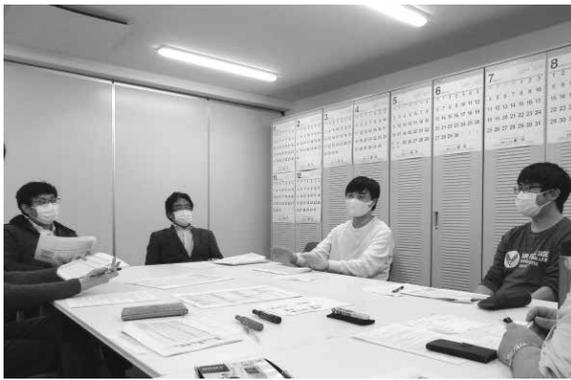
伊藤：確かにコロナ前のご飯食べながら先生とか同期としゃべる機会があったけど一切なくなってしまうました。

清水池：自分の院生の頃を思い出すとそういう雑談の時間ってとても大事だったと思う。会食も飲み会もできなくなりましたし、雑談するためにZoomしようとはならないですからね。

金森：研究室でオンライン飲み会をやった人はいますか？

伊藤：やりました。Zoomでやると一人が話して他の人は話を聞くという感じでした。対面での飲み会みたいに近くの人どうしでバラバラしゃべっている感じではなくて、ぼーっと他の人の話を聞く感じでした。

佐藤：オンラインツールはもと



もと面識がある人どうしであれば問題ないんですが、研究室に配属されたばかりの4年生とかは大変だったんじゃないかなと思います。やはり最初は対面のコミュニケーションが大切だなと思います。自宅にいるときにずっとZoomを続けることはできないので、研究室の生活の場としてのコミュニケーションのよい要素はオンラインでは置き換えられないですね。

清水池：コロナ禍で院生どうしの横の関係がさらに薄くなっているんじゃないかなと思う。教員との縦の関係の間では研究の相談などで来るが、同じ研究室の仲間が今どういう研究をやっていて、何に悩んでいるのかみたいな話はできていないように見える。

「コロナ禍での進路選択」

稲垣：大学院に進学する学部生へのアドバイスの回答が必ずしも大学院の進学を前向きに進めている回答ばかりでないことが気になっています。回答してくれた院生の中には大学院に進学するという選択に満足しきれていないところがあるのではないかなとみていました。背景にはコロナで研究を思っていた通り

にできていなかったり、大学院修了後就職予定の人にとっては1年前2年前に学部卒で就職していたらコロナの影響を受けていなかったかもしれないという気持ちもあるかもしれないなと思います。

金森：就活を終えた修士2年の2人は就活でコロナの影響ってありましたか？

中山：コロナの影響で良かったことの話になっちゃうんですけど、オンラインの面接になったことで、交通費や移動時間が節約できて助かったなと思っています。研究等との両立もやり易くなりました。

稲垣：僕は就活時点ではなく、内定を承諾する企業を選ぶときにちょっと悩みました。就活の時点ではコロナがいつまで続くかわからない中で、その後影響を受けるかもしれない業界も志望していました。就職したあとにしっかりと働くことができるかなと考えた時にコロナの影響を考えました。

中山：オンライン面接がメインになって会社がどこにあつてどんな人たちが働いているという雰囲気的なものは全然わかっていない。企業側もたくさん非選

考の面談を設定してくれましたが、実は今も来年から働くイメージは漠然としています。コロナ前から内定ブルーって話があったと思うんですけど、そのような不安が増えているんじゃないか心配ですね。

清水池：学部4年生も同じようなことを言っています。就職先を決めるときにほとんどオンラインの状況で、果たしてこれでもいいのか自分でも確信が持てないと言っていましたね。

「北大生協の大学院生への支援」

金森：最後に院生の生協利用や生協に期待したいことを聞いていきたいと思います。

李：院生からの24時間営業をしてほしい、夜も食堂を営業してほしいという声は現状の経営状況では無茶振りに見えるけれども割と切実な願いだと思います。

金森：1月にはテストや論文作成をがんばる学生・院生向けにクラーク食堂の夜営業も行いました。経営状況がよくない中で一部の学生・院生から需要があっても採算を取ることができないので、夜の営業を継続的に実施することは難しい状態です。

佐藤：コロナ禍で生協の食堂購買を利用したいと思う時間もバラバラになっていて、平均的にどの時間帯も少ないという状態になっていると思う。このような状況で経営していくのは難しいなと思ってる。夜でも食品が買える自販機みたいなのがあったら便利だろうなとは思っています。

清水池：昔はカップラーメンやカロリーメイトの自販機があった。院生の時はよく利用した記憶があるけれど、いつの間になくなったんでしょ？

中山：社会的な流れとしてコンビニの影響で自販機が少なくなっている気がします。ただ北大の中でいうと建物から出ないで食品を購入したいという需要はあるのかもしれない。ただ24時間職員さんに働いてもらうわけにはいかない。お弁当の配達をしてほしいという声は先生方や院生からもよく聞くけれど人手は足りない。自分たちが出資している自分たちの生協だから、お弁当を配達するボランティアやろうよみたいな声が出てきたらよいですが、自分は食べたいけれど、他人のためには運びたくないという感じだと悩ましいですね。

清水池：そういう考えは大事だと思いますよ。自分たちの生協だからこそそういうことがありえる。24時間営業にしてほしいというのは簡単だけど、生協が自分たちの組織だということ意識が出てくれば、それが簡単なことではないということもわかると思う。

伊藤：理学院はセコマがあるから大丈夫という感じで、生協をあまり意識しなくなってきたというふうな気がします。学部生のころは空きコマだから購買行こうということがありましたが、研究室に配属されてからはなくなりました。生活スタイルが変わって生協の利用は不規則になっている。ただ必要になった時にちゃんとやってくれないと困ると感じることは多くなってきた気がします。

稲垣：生協への要望の結果を見ていても、困ったときは生協に頼みたいという気持ちは残っているなと感じる。こういう想いにはしっかりと答えていきたい。ただそういう組合員が困ったときに生協ですぐに対応できるのかなと懸念がある。事前にいつどのような需要があるかは把握する必要があると思います。

金森：本来生協は組合員の困っ

ていることをみんなで解決しようという組織のはず。ただ今は学生の様子が見れないので組合員の困っていることを把握すること自体も難しい。さらにお店に来てもらえないと生協が何をやっているかもわかってもらえないという状態。

佐藤：調査の結果を見てもTwitterの情報は25%の人が参考にしていてと答えている。組合員からの要望がどうかの正確性を確保するのは難しいかもしれないが、質問箱とかDMとかで集めることができないかなと思います。

中山：直接困っていることを拾い上げるには時間がかかるけれども、学生・院生・教員それぞれが所属している組織の中で周りの様子を見ていて、学生がこういうことで困っているらしいという情報はみんな持っていると思う。総代会議やこの座談会のような形で困っていることを共有して解決策を一緒に考えていく場をしっかりと作っていくべきなのかもしれない。

金森：組織委員会の活動の中でもいろいろな人の困っているという声を拾って集め解決していけたらと思います。引き続きご協力よろしく願います。

2月の売上げランキング



今月もクラーク店らしいタイトルが並ぶランキングとなりました。

特に注目したいのは、「NHK100分DE名著」シリーズのテキスト2点です。

資本論もファノンの本も決して読みやすいものではありませんが（資本論挫折組の個人的な実感です）、番組はどちらもわかりやすく、おもしろく見ることができました。テレビを見てからテキストを読むと、難解だと思っていた内容も、「私、理解力に優れてる？」と錯覚するほど、よくできています。

みず書房から出ている『黒い皮膚・白い仮面』は2月だけで3冊売れています。

この番組に触発されて購入した方がいるに違いない、と思っています。

斎藤幸平の『人新世の「資本論」』は新書大賞を受賞したこともあります。1月のマルクス資本論の放送の影響も考えられます。

	書名	著者名	出版社
1	人新世の「資本論」 集英社新書	斎藤幸平	集英社
2	カール・マルクス『資本論』 NHKテキスト 100分DE名著 2021年1月	斎藤幸平	NHK出版
3	フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』 NHKテキスト 100分DE名著 2021年2月	小野正嗣	NHK出版
4	戦後民主主義 中公新書	山本昭宏	中央公論新社
5	学問の自由が危ない	佐藤学（教育学）	晶文社
6	英語独習法 岩波新書	今井むつみ	岩波書店
7	沖縄の新聞は本当に「偏向」しているのか 朝日文庫	安田浩一	朝日新聞出版
8	龍の起源 角川ソフィア文庫	荒川紘	KADOKAWA
9	データ分析のためのデータ可視化入門 実践DATA SCIENCEシリーズ	キーラン・ヒーラー	講談社
10	思考の自然誌	マイケル・トマセロ	勁草書房

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



大変な死別体験をした人たちの手記を讀むと、前を向いて歩み出すきっかけや心の支えが、子どものことばだったという話が出てくることがあります。意外と多いのではないかと、という印象があります。また、そういった死別体験を持つ方は、文字を讀むのがつらい時でも、絵本は頭に入ってくるというものは、よくあることだと言います。

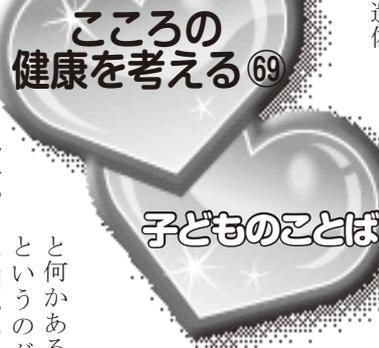
子どものことばには、人を支える特有の力があるのではないかと、私は思います。子どものことばを、ここでは子どもが発したという意味だけではなく、子どもと大人が共有することば、という風に少し広く考えることにします。その方が実際のなような気がするので。

これは日航機御巢鷹山墜落事故で夫を亡くした女性の話です。地獄絵図と言われた遺体確認を終えてその地を離れるとき、まだ十一歳だった末娘がそつと手を握って言ってくれたということばについての短歌／「いままでどおりやさしいママでいないとだめ」といってくれし娘の言葉わすれず／私はこの短歌に驚嘆し、強い印象が後を引きました。だいたつたから授業で紹介するために、何冊も本の頁を繰って、原文を一時間以上かけて探しました。

東日本大震災の時、激しく損傷した身元不明遺体の中に肉親を捜す人たちに付き添うという、苛酷を極める支援に従事した人たちは、その帰路にその日の辛い経験を語り合い、分かち合った後に、大きな声で一緒に歌をうたうのが常であったと言います。そしてその歌は、童謡であったそうです。

息子を精神疾患による自死で亡くした作家は、気がつく書店で絵本を手に取り、やがて書齋はたくさんの絵本でいっぱいになった、と言っておられます。

これらひとつひとつの話は、それが子どものことばでなくてはならなかったという必



然性を感じさせます。では、どうして子どものことばには、人を強く支える力があるのでしょうか。これはとても難しい問いであるように、私には思えません。一つには、希望ということだろうか、ということが頭に浮かびます。人がこの世に生まれてその生を始めるとき、育てる人との間に愛着と呼ばれる濃密な愛情関係が生まれ、それが子どもの成長発達にとっても大切な役割を果たすというのは、心理学では基本的と言っている方です。そして、その中で子どもの側に生じるのが「希望」である、とされます。絵空事ではない、生きていくのにどうしても必要な条件としての希望です。極度の死別体験のさなかにある人は、この希望を失いかけている、それを取り戻すのが子どものことばであるということばは、言えそうな気がします。

でも、もしそうだとしても、それだけでも思えません。もっと何かある、というのが、今は正直なところでは、この問いの答えに、どう接近していったらいいのかさえ、どうよくわからないのです。

フランス文学の中で世界で最もよく読まれているのは、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』でしょう。その中のとてもよく知られたことば「いちばんたいせつなことは、目に見えない。」それにしても、サン＝テグジュペリはどうしてこのことばを、子どもに向けた本の中に書いたのだろうか、と思えます。子どもに向けた本だからこそ、このことばが現れたのであり、そして子どものことばだからこそ世界中の人々とどいたと、そんな気がしてなりません。

ほけんのお話

Vol. 24

今回は駐車場での自動車事故についてです。スーパーやコンビニを利用する際、駐車スペースを探して周囲を見渡して、空いたスペースがあって、焦って行こうとすると「ああ、先に入られたあー」、狭い車と車の間に入れるとき接触しそうになった、目の前を自転車が横切る、車と車の隙間から子どもが急に出てくる、お年寄りがゆっくり出てくる、発進しようとしたら車が横切っている、こんな危ない経験をしたことはありませんか？

交通事故分析センターの2016年の調査では、18766件(全体の3.8%)、損保協会東北支部の車両事故実態調査では、2013年の車両事故のうち、駐車場内が29%、その中で車同士の接触や衝突が60%で最も多いとのこと。

駐車場の事故要因としては、一般道では基本的に同じ車線では同じ方向に進むのに対して、駐車場内では車両の動きが不規則であるという駐車場特有の要因と、死角が多いことや人と車の通行区分が不明確なことがあります。さて、事故が起きたときの過失割合はどうなるのか。駐車場には優先道路も信号機もないので、状況や証拠が判断としないことも多く、「自分は絶対に被害者だ！」と主張しても、50・50で終わるケースが多いようです。スパーの駐車場は不特定多数の人々が利用するため道路交通法が適用されます。事故が起きたときは、

- ① 負傷者の救護
- ② 警察への連絡
- ③ 事故状況の確認
- ④ 保険会社への連絡
- ⑤ 軽いけがでも病院で診察を受けるなど通常の事故の際の行動が必要。

とにかく事故がないのが一番なので、スピードを落として、危険がたくさん潜んでいると考えて、前後左右の安全確認を怠らず、譲り合いではなく、自分が譲る姿勢で安全運転を心がけたいものです。



大学文書館へ 行こう

第4回 「二人のパイオニア」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



中島九郎 (1925年ころ)

を編纂・刊行しますが、その先駆となり模範となった仕事です。また、中島は一九五六年に北大の育ての親である佐藤昌介の伝記も刊行します。中島は農業経済学者としても多くの仕事を残しましたが、同時に北海道大学史の最初の専門家でもありました。

柴田定吉と「札幌農学校簿書」

そして、中島が『北海道帝国大学沿革史』執筆に利用した札幌農学校の公文書（現在は「札幌農学校簿書」と呼んでいます）の整理・保存に当たったのが、附属図書館司書の柴田定吉（一八八八〜一九六三年）です。

萩伏村（現浦河町）出身の柴田定吉は地元の高等小学校を卒業後、一四歳から札幌農学校図書館に勤めます。その傍ら私立北海英語学校（現北海道校）の夜学部などで、英語・

ドイツ語・フランス語・漢文等、大学図書館の司書の仕事に必要な知識を学びます。初めは定員外職員の立場でしたが、一九一三年に正式な大学事務員となり、一九二六年には附属図書館の現場責任者に当たる「司書官」となります。その後、一九五二年の退職まで五〇年間にわたって図書館の専門の仕事が続けます。

一九二六年四月二六日付け

『小樽新聞』は、柴田定吉とその背丈以上に積み上がった「札幌農学校簿書」の写真を掲げ、「写真は今回北大沿革史編纂に当って最も重要な材料を提供した史料の山である」、「図書館では今度のお祝には之等全部を整理して展覧に供する由にて大学の今日あるを知らんとする人には必ず見落してはならぬ貴重な見物である」と報じています。「札幌農学校簿書」は整理の後、附属図書館が保存しました。



『小樽新聞』(1926年4月26日)

で所蔵しています。最も利用の多い資料です。

歴史的資料は、利用されることによってその価値が広く認識され、大切に保存されるようになり、さらにまたより広く利用されるようになります。こうした資料の利用・保存の好循環の舞台回しがアーカイヴズの役割です。中島と柴田の仕事はそのことをよく示しています。

中島九郎と五〇年史

大学文書館の仕事は大きく分けると、北海道大学の、①歴史的資料の保存、②その資料を利用した歴史の調査・研究の二つです。大学文書館の設置は二〇〇五年五月ですが、これら二つの仕事はもっと以前から行なわれています。今回は北海道大学のアーカイヴズのパイオニアとも言うべき二人を紹介いたします。

執筆したのは農学部教授中島九郎（一八八六〜一九五九年）です。中島九郎は一九〇四年に札幌農学校予修科に入学しました。本科進学後に農学校が東北帝国大学農科大学へ改組したため、中島は農科大学の学生となり、佐藤昌介（農科大学長）、高岡熊雄（後に第三代会長）に師事して農業経済学を専攻します。一九一〇年の卒業後、助手となり、助教・教授と昇進して一九四八年の退職まで務めます。

『北海道帝国大学沿革史』は、札幌農学校以来の公文書を駆使し、五〇年にわたる北大の歴史を実証的に記述しています。その後、北大では八〇年史、一〇〇年史、一二五年史

五〇年後、そして一〇〇年後

二人の仕事から五〇年後、『北大百年史』編纂に当たっては、「札幌農学校簿書」をフル活用し、資料集として『札幌農学校史料』二巻を刊行しました。現在、「札幌農学校簿書」は大学文書館が引き継い

二人の仕事から一〇〇年、二〇二六年に北海道大学は創基一五〇年を迎えます。この四月から大学文書館内に「北海道大学百五十年史編集室」が立ち上がり、二人の仕事に連なる一五〇年史の編纂が目標です。

札幌農学校開校の一八七六年から五〇年の一九二六年、北海道帝国大学は『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』を刊行しました。「これがこの大学の歴史です」と北大が公式に表明した最初の通史です。



柴田定吉 (1940年ころ)

生協電子マネー 春のプレミアム キャンペーン

期間：4月5日(月)

～4月16日(金)

購買・書籍・食堂のレジで2,000円以上のチャージをしていただくと、3%のプレミアムが付きます。

第1学期は、購買歯学部店と保健学科店の臨時休業を行っています。

ご迷惑をおかけしますことをお詫言申し上げます。

中央食堂が オーブンします

4月5日、1階食堂が耐震補強工事を終え新装オーブン致します。テーブルや椅子は変わりませんが、天井や壁は綺麗に一新していますので、気持ちよくお食事を楽しんで頂けると思います。

2階の食堂は、コロナ禍で利用が増える見込みがないため、ホールだけ開放します。

また、購買店は閉店します。食品などのコンビニ形態では再開しない予定です。利用方法が決まりましたらご案内致します。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■生協に関するアンケートを募集しています。

コロナ禍で大学生協にやってほしいサービスを募集しています。QRコードよりぜひお答えください！



■履修相談会MANAVIを行います。

新入生向けに今年も履修相談会MANAVIを開催します。全体説明会は対面で、個別相談会はzoomで行う予定です。ほかにも冊子を発行したりLINEで質問対応したりします。

■受験生歓迎を行いました。

受験生を対象に、オンライン北大生と話そうや受験生応援冊子「いな蔵」の発行、YouTube Live「北大生の部屋」などの企画を行いました。

■学生会委員会公式HP、Twitter



HP



Twitter

■学生会委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

学生会委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。

これからも学生会委員会をよろしくお願ひします!!

院生委員会

■新入院生向けに歓迎企画を行います

今年度は4月3日13時からオンラインでの新入院生歓迎企画を実施します。修士課程のその先を見据えて、就職した先輩、進学した先輩の話を聞いたり、新入院生同士で交流したりする企画を行います。詳しくは院生委員会公式Twitterをご覧ください。

■院生委員会公式Twitter

@Hokudainsei_coo

北大大学院生に向けて情報を発信するために、昨年度4月より再稼働しました。世の中のたくさん情報の中から北大の大学院生にかかわる情報を発信しています。今後は北大大学院生対象のアンケートなども実施予定です。大学院生や大学院進学予定の学部生のみなさんはぜひご覧ください。

■院生委員会連絡先

hokudai_insei@coop.hokudai.ac.jp

現在、院生委員会では大学院生や大学院受験を控えた学部4年生のみなさんにとどのような活動・サポートができるか検討しています。困っていることや要望があればぜひご連絡ください。

教職員委員会

■教職員総代会議…通常時学内7ヶ所で開催する総代会議を、2月は16・17日のお昼休みを利用して、3ヶ所合同でWEB会議により開催しました。

北大生協の経営状況の報告、2021年度総代選出についてのお知らせ、来年度の総代会議日程の確認、また学内の学生や教職員の状況について情報交換しました。

■教職員委員会…毎月1回、総代会議であがった組合員の声や、企画物の立案、「きぼうの虹」に掲載する記事内容について討議しています。2月18日にWEB会議で開催しました。また2月16日に大学院生生活実態調査の結果をもとに、コロナ禍における大学院生生活と北大生協のできることに付いて教員・院生・留学生・生協職員で座談会を開催しました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。今号では、前述の院生委員会と合同で行った座談会の模様を掲載しました。

【編集後記】

新年度がはじまりました。昨年度は色々なものが社会から失われました。同時に、各方面で、対面のありがたみ、をひしひしと感じました。皆さんはいかがでしょう。

さて、ワクチン接種がはじまりました。今年度が雨上がりの虹のような一年になるよう期待しています。今年度もどうぞよろしくお願ひします。